

Health Literacy and Health Outcome ;Overview of the Literature

Darren A.DeWalt,MD,MPH,他

看護情報学
プレゼンテーション資料
M2;多田敦子



はじめに

- 過去10年から20年の間、low Health Literacyとadverse Health Outcomeの関係が取り上げられてきた。
- 早期の研究では、医療情報の読みやすさと読む能力の関係に警告。
- 最近の研究では、直接、LiteracyとHealth Outcomeを調べ始めている。

health Literacyの測定用具

- REALM (Rapid Estimate of adult Literacy in medicine)
- WRAT-R3 (Wide Range Achievement Test Revised 3)
- TOFLA (the test of Functional Health Literacy in Adult)

※REALM とWRAT-R3は、言葉のリストの認知や発音を測定するようなテスト

※TOFLAは、人々の健康情報に対する能力を測定する二つの方法を使用している。

レビューの方法

- MEDLINE, CINAHL, ERIC, PAIS, ILRRで検索
- 1980年から2003年までの資料で検索
- Keywordは、literacy, numeracy, WRAT, reading ability, reading skillなど

システマティック レビュー



- 
- リテラシーのヘルスアウトカムに関連を調査している研究は、この10年の間で多かった。
 - 42の観察研究を明らかにし、そのうち30は、断面的な研究であり、10はコホート研究であった。そして2件は、ケースコントロール研究であった。

知識あるいは理解力

- いくつかの研究では、アウトカムの一つとして、病気や検査に関する知識をあげている。
- 全体的には、知識とリテラシーレベルのポジティブな関係を発見した。
- 二つの研究のみ、高いリテラシーのグループに知識レベルが有意に高いという結果であった。

健康行動

- 母乳：読む能力と母乳で育てない行動の間に5%の有意差がみられた。
- 喫煙：読む能力と喫煙との関係に有意差がみられた。喫煙経験のある妊婦とリテラシーの検査では、リテラシーに有意差は見られなかった。また、リテラシーのレベルにより、男の子では差が見られたが、女の子では有意差が見られなかった。

健康行動2

- 飲酒：思春期の男の子では、リテラシーの高低で有意差が見られたが、女の子では有意差が見られなかった。
- 喘息薬の使用：高いリテラシーの患者が吸入薬の利用を上手に行うことができた。

スクリーニングと予防

- 性感染症のスクリーニング：淋病とリテラシーの関係—REALMで9レベルより低い人は、淋病を獲得するリスクがあることがわかった。

Adherence

- リテラシーと順守の関係は三つの文献で明らかにしている。ある研究では、48週間にわたるコホート研究を行った。TOHFLLAと順守に関連はなかった。
- 低所得の早期乳がんの患者では、REALMと順守に関連は見られなかった。

生化学と生物学的Health Outcome

- 糖尿病：3件の研究でリテラシーと糖尿病のアウトカムについてアセスメントされている。
- 子どものI型糖尿病で、HbA1cの値にWRAT-R3の結果との間に有意差は見られなかった。しかし親のNARTでは、若干の有意差がみられた。

生化学と生物学的Health Outcome2

- 高血圧：高血圧とそうでない患者との間で有意差は見られなかった。高血圧と診断された患者間では、十分なりテラシーの患者のほうが血圧のコントロールが良かった。しかし年齢の調整を行うと有意差は見られなかった。

グローバルな健康状態の測定

- 4件の文献で調査している。
- すべての研究で、低いリテラシーと健康状態の悪化に関連があった。リテラシーの高い人よりも、低い人のほうが健康状態が悪かった。(TOFHILA)



ヘルスケアリソースの使用

- 入院:リテラシーの引く患者のほうが、入院する回数が多かった。(年齢や性別、健康状態などの母集団の調整をした後で)
- コスト:リテラシーとケアに対するコストの関係に関連は見られなかった。差が見られた結果もあるが、この結果に関しては、より実質的な関係を調査する必要がある。

閑話休題

- 文部科学省の報告書によると、日本の子どもは、PISA調査（生徒の学習到達度）から、OECDの中で、『数学的リテラシー』『科学的リテラシー』『問題解決能力』の得点については、1位の国と有意差は無かったが、『読解力』の得点については、OECD平均程度まで低下している状況である。（平成15年の調査より）

まとめ

- リテラシーとヘルスアウトカムとの解明は、救急分野でまだ行われていない。
- 公表されている文献によると、様々な分野でリテラシーは、知識と読む力に関連している。しかし多くのケースでは、研究デザインや分析方法が雑多になっている。
- リテラシーとヘルスアウトカムは、かなり証明されてきているが、関係性の大きさと方法論については、もっと探索する必要がある。

- リテラシーの効果を説明することはかなり難しい。
- 他の社会経済状態の測定用具とヘルスアウトカムとの教育的レベルは密接につながっている。
- ヘルスリテラシーの測定は個人の読む能力の測定に焦点化されている。
- 多くの要因、学校教育の長さ両親の影響、言語の発達、社会状態などは、読む能力の差に通ずる。



- 個々のリテラシーの測定は、リテラシーレベルの影響力は、書いてあるものあるいは指示を話されたことを理解するための能力に関しては、役立つかもしれない。
- 患者—医師間のコミュニケーションの研究は、より健康を悪くする低いリテラシーの道を解決することにつながるかもしれない。

- 
- 知識だけではなく、ヘルスアウトカムを増加させる介入に焦点化した研究は、リテラシーと健康を調停する要因を明らかにする助けとなるであろう。
 - 観察的な研究は、自己効力感、医療の意志決定に参加することのような中間の測定用具を精製し、未来の介入を焦点化することを助けると確信する。